岡崎市立大樹寺小学校　校長室だより　令和５年３月24日（金）　第34号

大樹のこころ

良いとこ見つけ

本日、修了式が行われ、令和４年度が終わりました。全ての子が、今年度の教育課程を立派に修了しましたことを嬉しく思っています。おめでとうございます。

さて、自分は昨年の４月に本校に赴任しました。前任校でも校長として職務を全うしてきましたが、同じ小学校でも学校によって特色があります。そこでこの１年間、自分は大樹寺小の良いところを見つけようとしてきました。

まず本校の良さとして、異学年交流が活発であることが挙げられます。どこの学校でも６年生と１年生との交流は行います。しかし大樹寺小では、１年と６年の交流はもちろんのこと、２年生と１年生、３年生と２年生、４年生と３年生といったように、様々な組み合わせでの活動が見られました。これはとても新鮮でした。異学年交流を通して、上学年の子は先輩としての自覚を持つようになり、下学年の子は憧れや親近感を抱くようになっていきます。そして「相手の立場を思いやる」という意識が育まれていきます。とても良い試みだと思いました。

次に感じた良さは、子供たちの「自己肯定感が高い」ということです。日本の若者は他国と比べて自己肯定感や自己有用感が低いと言われます。ところが本校の子供たちには、それが当てはまりません。６年生が行う全国学力状況調査や全校児童を対象にした学校診断アンケートなどで、「前向きな回答」の割合が高い結果が出ています。「学校が楽しい」「勉強が好き」「友達と仲良くしている」と考えている子が多いのです。これは本校での授業や生活に子供が満足している証拠です。大樹寺小の先生方は、授業実践に向けて熱心であり、またクラス経営にも丁寧に取り組んでくれていると思っています。

最後は、何といっても「家康学習」の充実ぶりです。大樹寺小は家康公ゆかりの学校とは聞いていましたが、これほどまでにどっしりと根を下ろしているとは思いませんでした。１年生から６年生まで系統的なカリキュラムがあり、それに沿って確実に家康公について学んでいきます。この学び通して家康公に対する尊敬の念や誇りに思う心を育んでいました。この家康学習こそ、「伝統校としての誉れ」であると感じました。これらのこと以外にも、１年間で大樹寺小の良いところをたくさん見つけることができ、本校を大好きになりました。

この１年、保護者の皆様のご理解ご協力のおかげで、無事に修了することができました。この場を借りてお礼申し上げます。来年度は、子供たちは一つずつ学年が上がり、新たな学びが始まっていきます。希望を胸に抱きながら、大樹寺小をさらに良くするために頑張っていきたいと思います。